



Low carbon community  
大規模再開発地  
「みなとアクルス」  
01

## 低炭素まちづくり 始まっています！

～“低炭素で快適な都市なごや”を目指して～



“まちづくり”が地球温暖化を止める！？

近年、極端な大雨や猛暑による健康被害など、地球温暖化が原因ではないかと考えられる様々な影響が各地で現れています。気温上昇がそのまま進めば、地球全体の気候が大きく変化し、さらなる脅威が私たちの暮らしを襲うかもしれません。

こうした脅威を少しでも減らすために世界中で取組みが進められるなか、“まち”単位の取組みに大きな期待が寄せられています。“まち”は、家庭生活や経済活動の場であり、エネルギーを消費するばかりでなく、生産することも可能です。また、国や自治体の施策よりスピーディで、個人の取組みよりも大きな効果が出る特長があります。

環境負荷が小さく、質の高い暮らしを可能にする経済・社会システムを備えたまち。こんなまちが早く広がれば、地球温暖化をくい止めることができるかもしれません。

Low carbon community  
既成市街地  
「錦二丁目低炭素地区」  
02



# “低炭素なまち”とは…？

事業活動や家庭生活などから排出される温室効果ガス(主に二酸化炭素(CO<sub>2</sub>))を大幅に削減したまちのことです。名古屋市域全体から排出される温室効果ガスのほとんどが、化石燃料の燃焼等によって排出されるCO<sub>2</sub>です。

## 具体的な取組例

視点

### 01 都市構造 (駅そば生活)

住宅・職場・利便施設が駅そばに集積した、歩いて暮らせる、低炭素で快適なまちづくり

取り組み内容例

- 生活利便施設の充実
- 駅そば居住の推進 など

視点

### 02 交通 (移動)

徒歩、自転車を優先とした駅そばの魅力アップや、かしこい自動車利用ができるまちづくり

取り組み内容例

- 公共交通の活用
- コミュニティサイクルの導入
- バリアフリー化を含めた公共交通へのアクセス性の確保
- 歩行者空間、自転車空間の整備
- 共同駐車場の促進
- 低炭素カーシェアリングの導入
- EV用充電器の設置 など

視点

### 03 エネルギー (住宅・建築物)

太陽光や自然の風を生かした断熱性・省エネルギー性等の環境面に優れた、長寿命化・安全性等に配慮した住宅・建築物

取り組み内容例

- 太陽光や自然の風を生かした次世代省エネ住宅・建築物の整備
- 環境性能表示等による先導的省エネルギー住宅・建築物の整備 (ZEH・ZEB) など

視点

### 04 エネルギー (地域エネルギー)

地域内での面的かつ合理的なエネルギーの利用・管理などを促進して、太陽光発電・太陽熱利用を始めとする再生可能エネルギーの導入や自立分散型エネルギーシステムの活用

取り組み内容例

- 地域規模でのエネルギーマネジメント
- 再生可能エネルギー(太陽光、バイオマスなど)の地中熱や排熱などの未利用エネルギーの活用
- 地域内でエネルギーを有効活用するスマートコミュニティの検討

視点

### 05 みどり

土地の持つ自然の力、緑・水・風などを活用するまちづくり

取り組み内容例

- みどり豊かな地域の形成
- 協働によるみどりの育成

視点

### 06 地域貢献

地域の特性に応じた持続可能なまちづくり

取り組み内容例

- 持続可能な暮らしを育むまちの担い手の育成
- その他、地域が抱える課題と地球温暖化対策の同時解決

まちづくりでの低炭素な取組は、「都市構造」や「交通」、「みどり」、「エネルギー」といった様々な分野が密接に関連します。分野横断的に取組を進めることにより、家庭や事業所といった個々での取組より大きな効果が期待されます。また、市域全体の施策よりスピーディであり、効果も早く出るメリットがあります。



低炭素なまちのイメージ 画：吉村直樹

## エコだけじゃない。まちが抱える課題にも効果もあり？

低炭素まちづくりは、地球温暖化防止に貢献するだけでなく、生活の質やまちの魅力の向上など、さまざまな副次的効果(コベネフィット)が期待されます。



- 太陽光発電の設置→緊急時のエネルギー源の確保
- 都市機能の集約化→交通弱者の利便性の向上
- 徒歩・自転車へのシフト→健康増進、まちの賑わいの創出
- 住宅の低炭素化→ヒートショックの抑制

(安全・安心、健康増進、まちの魅力向上、良好な景観、ヒートアイランド現象の緩和、非常用エネルギーの確保、生物多様性の保全、省コストなど)

## 低炭素モデル地区の紹介

名古屋市は、低炭素まちづくりの普及に向け、低炭素なまちと暮らしの姿を市民・事業者の皆様具体的に示すモデルとして、2015年に「錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクト」と「みなとアクルス開発事業」の2事業を「低炭素モデル地区事業」に認定いたしました。

取組の詳細は次ページ以降

事業名	みなとアクルス開発事業	錦二丁目低炭素地区まちづくりプロジェクト
場所	港区	中区
目標	60%減(1990年比)	31%減(2005年比)
特徴	大規模再開発 中部圏初となる電気・熱・情報ネットワーク(CEMS)の構築	既成市街地 既成市街地を対象としたまちづくり構想の実現
要素	CEMSによるエネマネ	まちづくり協議会を中心とした取組体制
	環境に配慮した電力供給システム	各プロジェクト
	熱利用の高度化	都市木、公共空間、都市型エネルギー、グリーンビル
	災害時のエネルギー供給	
	賑わいのあるまちづくり、都市機能を集積し、親水空間やビオトープなど歩いて楽しいまちづくり	錦二丁目エリアマネジメント会社 錦二丁目7番第一種市街地再開発事業

## 事業名

# みなとアクルス開発事業

CO<sub>2</sub>排出削減目標 **60%**



エネルギーセンター

### 1. 環境に配慮した電力供給システム

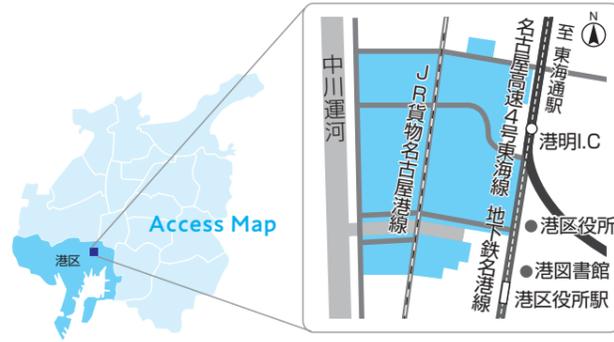
総合エネルギー効率の高いガスコージェネレーションや再生可能エネルギーの太陽光発電、外部からの木質バイオマス電力により、エリア内の電力需要の約半分をまかなう。

大型蓄電池のNAS電池を導入し、夜間の余剰電力を蓄電し、昼間のピークカットに活用することでCO<sub>2</sub>を削減している。

### 2. 熱利用の高度化

エリア全体の熱需要に応じて、ガスコージェネレーション容量を最適化した。また、ガスコージェネレーションの排熱を最大限に利用するため、排熱回収型冷温水器と低温の排熱から発電できる「バイナリー発電」を導入した。

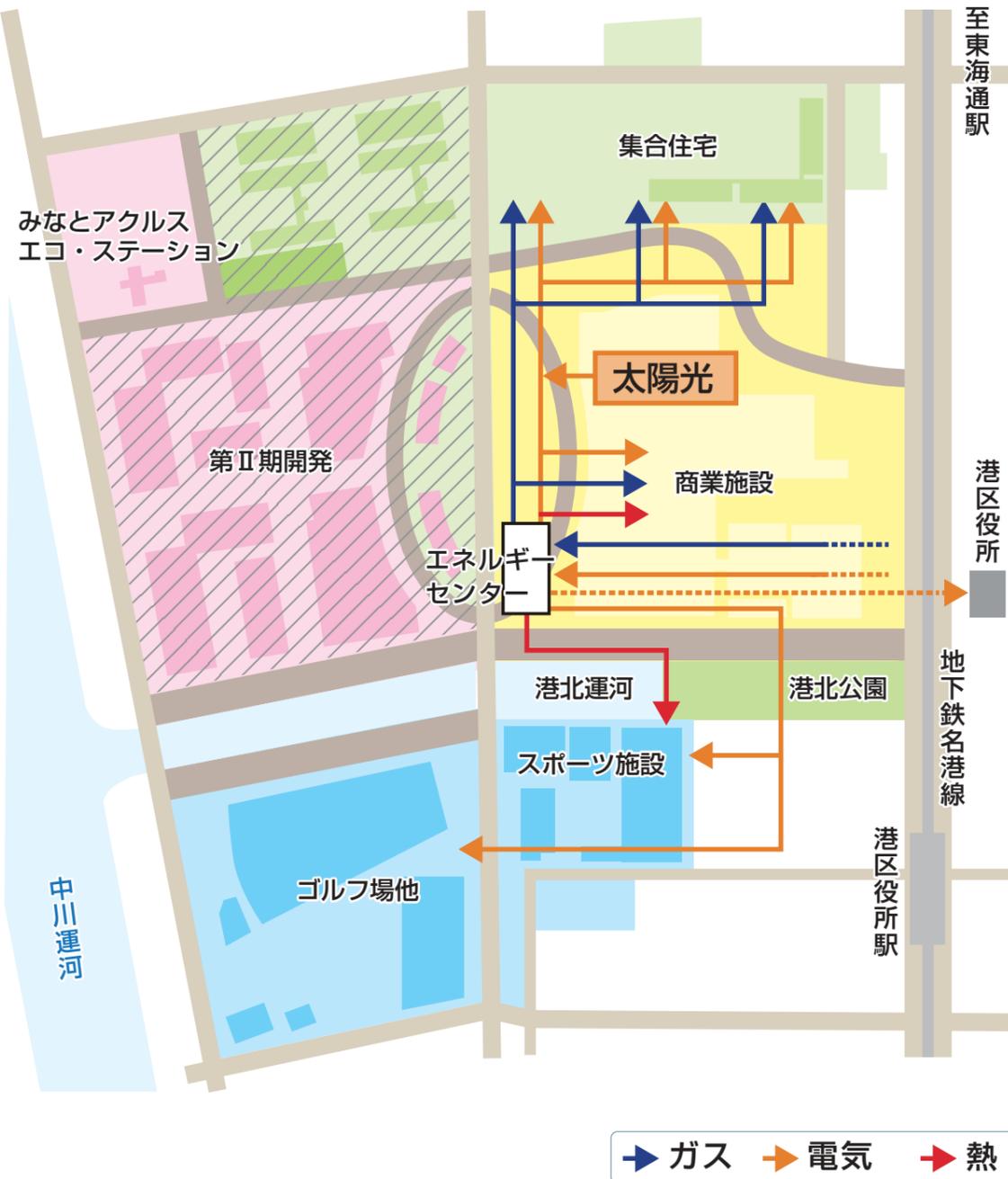
さらに、エリア内にある港北運河水を未利用エネルギーとして、冷房時はヒートポンプの冷却水、暖房時は熱源に有効活用することによりエネルギー使用量を削減している。



### 特徴

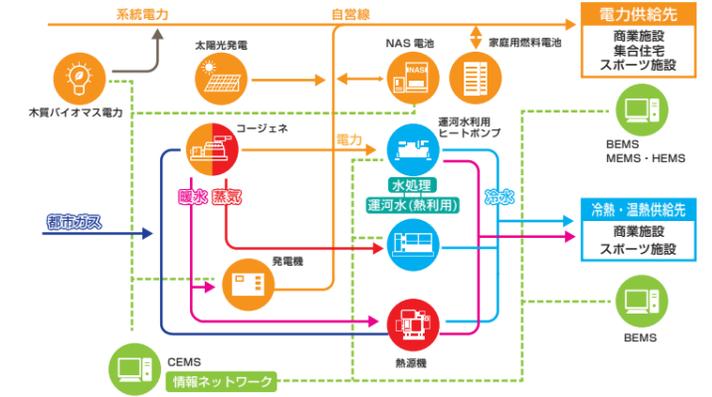
都市開発で中部圏初となる電気・熱・情報ネットワーク（CEMS）の構築

再開発に合わせて、商業施設や集合住宅、エネルギー施設など多様な都市機能の集約を図るとともに、電気・熱・情報のネットワークを備えた地域エネルギーマネジメントシステムを構築し、まち全体で省エネ・省CO<sub>2</sub>に取り組み低炭素なまちづくりを進めている。



### 3. CEMSによるエネルギーマネジメント

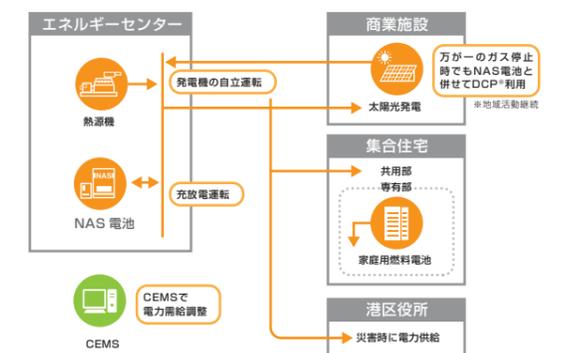
まち全体のエネルギーを一括管理する電気・熱・情報のネットワーク「CEMS」(コミュニティ・エネルギー・マネジメント・システム)を活用し、需要側と供給側が連携し省エネ・省CO<sub>2</sub>に取り組んでいる。



### 4. 災害時のエネルギー供給

大規模地震などの災害時でも、エリア内のエネルギー需給を制御し、必要なエネルギーを供給する。

- ・災害時もプラントの継続運転を可能とし、エリア内各施設へエネルギー供給を継続する。
- ・災害時に隣接する港区役所や港防災センターにも非常用電力を供給し、地域の防災に貢献する。



## 事業名

# 錦二丁目低炭素地区 まちづくりプロジェクト

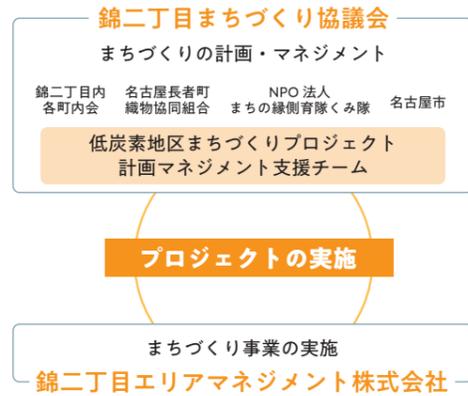
CO<sub>2</sub>排出削減目標 **31%**



錦二丁目界隈(長者町ゑびす祭り)

## 1. 取り組み体制

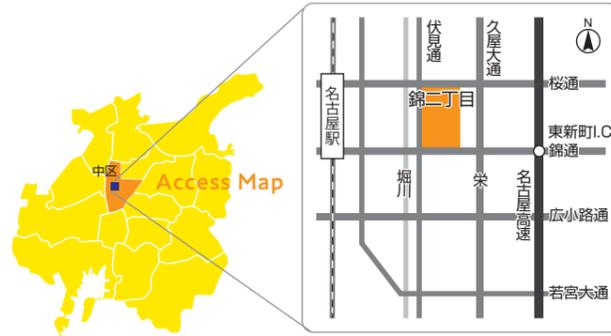
「まちづくり構想」を実現するための組織「錦二丁目まちづくり協議会」が低炭素地区チームと各種プロジェクトチームを結成し実行、現在は「錦二丁目エリアマネジメント株式会社」とともに、まちづくり事業を実施している。



## 2. 各種プロジェクト

### グリーン・ビルディング推進プロジェクト

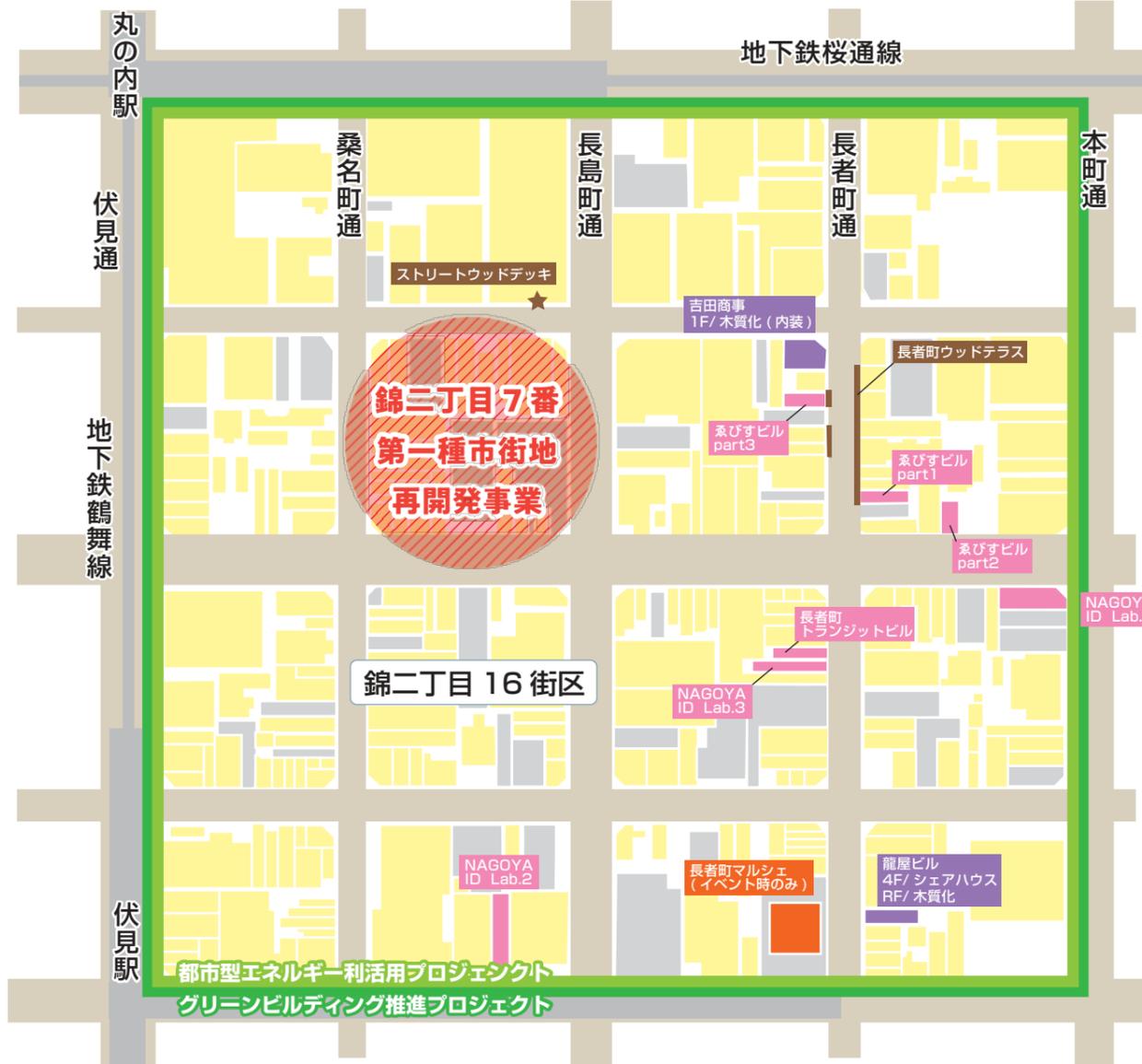
パイロット・プロジェクトの実現、建築デザイン・ガイドラインの策定、環境認証評価制度の活用推進などによる人と環境にやさしい建築を推進する。



## 特徴

既存市街地を対象としたまちづくり構想の実現

2030年までの「まちづくり構想」を実現するための組織「錦二丁目まちづくり協議会」が各種プロジェクトチームを結成し、事業者、住民、行政など多様な主体が協働して低炭素まちづくりを進めている。



### 都市型エネルギー活用プロジェクト

太陽光等の自然エネルギーを導入したエネルギーシステムの構築を目指す。



### 都市の木質化プロジェクト

低炭素で魅力ある街を目指し、木質ベンチの設置や建築物の内装木質化を推進する。



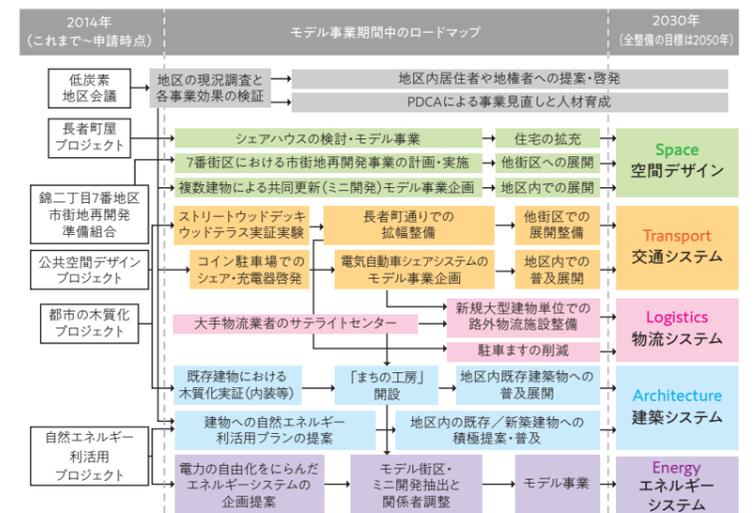
### 公共空間デザイン・プロジェクト

駐輪場の活用や自動車共同利用など低炭素交通の普及を目指す。

長者町通歩道拡幅社会実験(平成26年度実施)  
木質デッキを仮設し、歩道を2Mに拡幅



## 3. 低炭素地区まちづくりのロードマップ

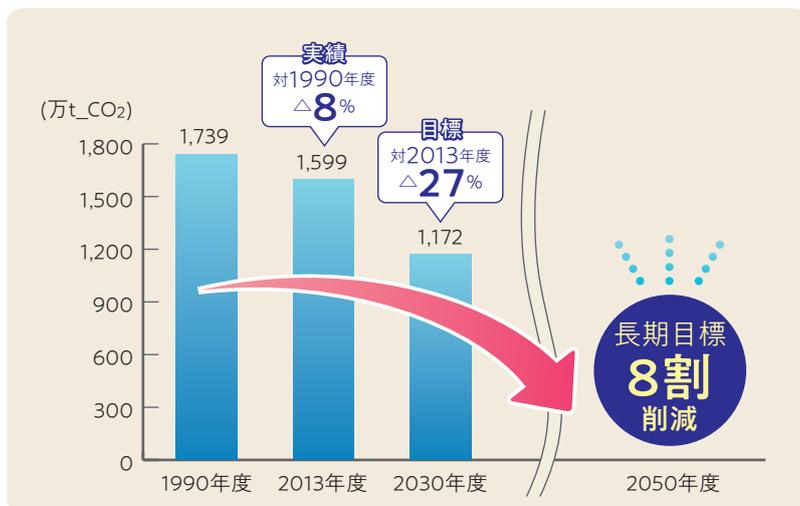


# 【参考】名古屋市の目標、SDGsの取組

## 名古屋市の目標

名古屋市は、2030年度までに温室効果ガス排出量を27%（2013年度比）削減することを目標としています。

さらに、2050年までには8割削減（1990年度比）という長期目標を掲げています。



## SDGs

「人間がずっと地球に住み続けられるように開発・発展するにはどうしたら良いだろう？」と国連で考えて決められた17の目標がSDGs（持続可能な開発目標）です。「誰一人取り残さない社会」の実現を目指し、世界中の国々がSDGs達成に向け取り組むこととしています。

低炭素なまちづくりに取り組むことは、主に「ゴール7」、「ゴール11」、「ゴール13」、「ゴール17」などの目標達成に深く関わります。また、健康増進や地域振興などそれぞれのまちが抱える課題と重ね同時解決を図ることで、より持続可能な発展へとつながります。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



低炭素な  
まちづくりに  
取り組む



目標達成！

お問い合わせ先

〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号 名古屋市環境局環境企画部低炭素都市推進課

TEL 052-972-2662 FAX 052-972-4134 E-mail a2693@kankyokyoku.city.nagoya.lg.jp